

車いす用ダイナミック型エアースル クッション（メディエア[®]）の使用経験

- 1) 医療法人福友会老人保健施設はっ田
- 2) 藤田保健衛生大学医学部第一病理学講座

大西 山大¹⁾²⁾



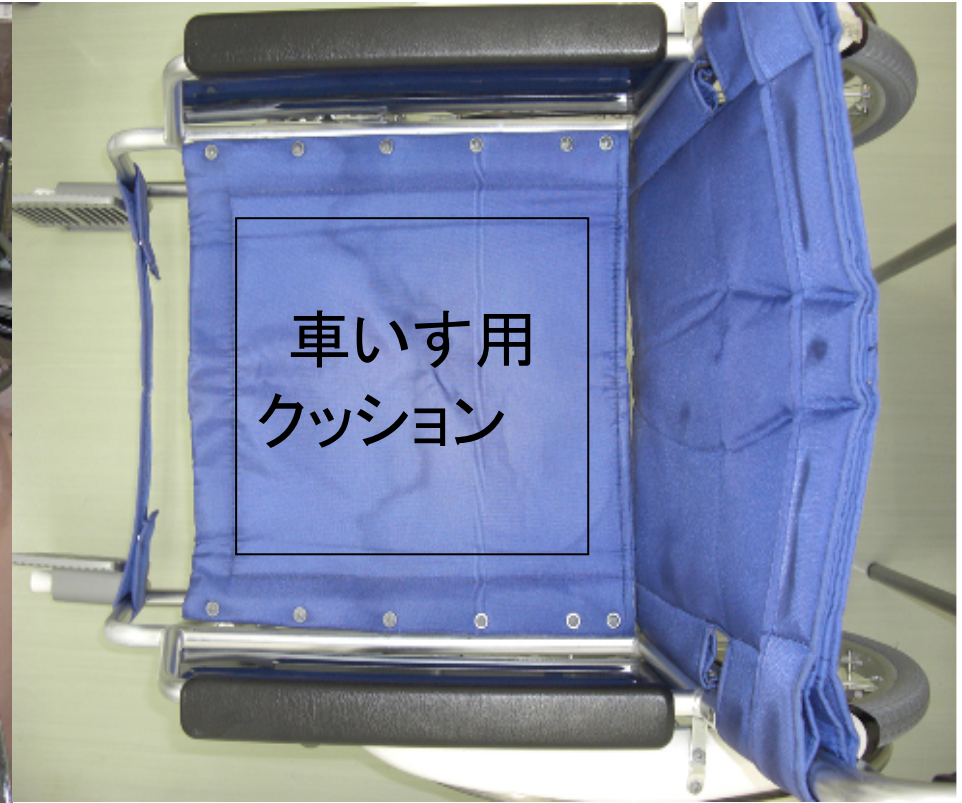
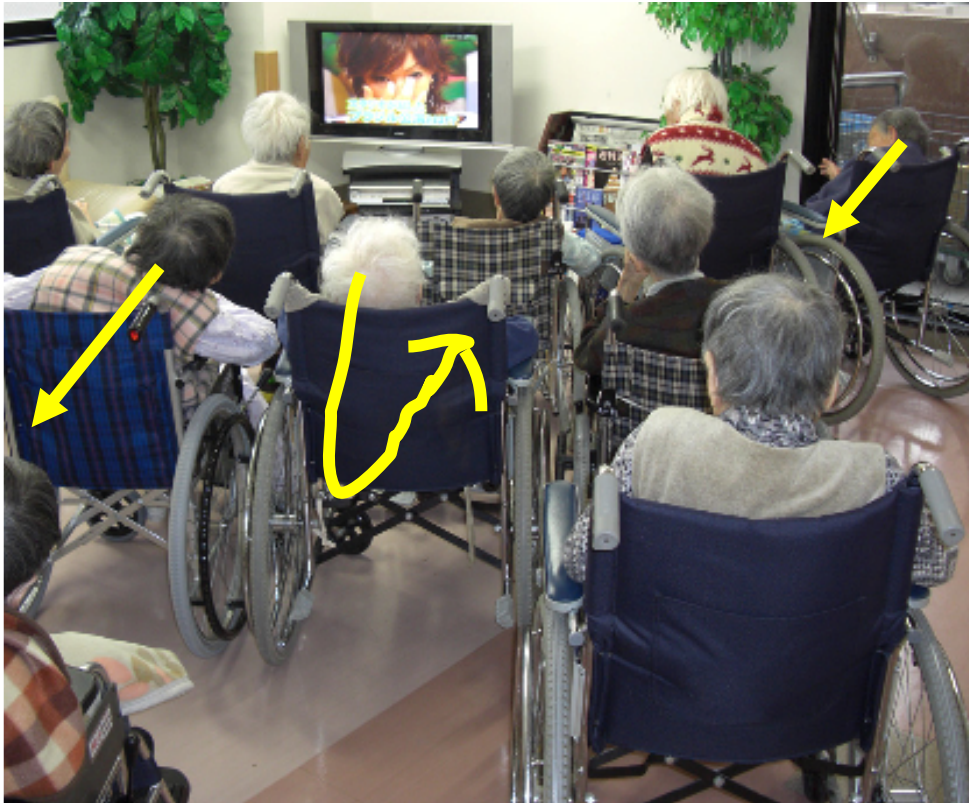
はじめに

座位に問題がある高齢の入所者3名に対して、自動内圧調整機能および底つき自動感知・回避機能を有する車いす用ダイナミック型エアースルクッション(以下、メディエア[®]と略：横浜ゴム株式会社)を使用し、有効であったので報告する。

倫理的配慮

研究の趣旨ならびに個人情報保護に関して、十分に説明し、ご本人またはご家族に同意書で承諾を得た。

当施設入所者の体位

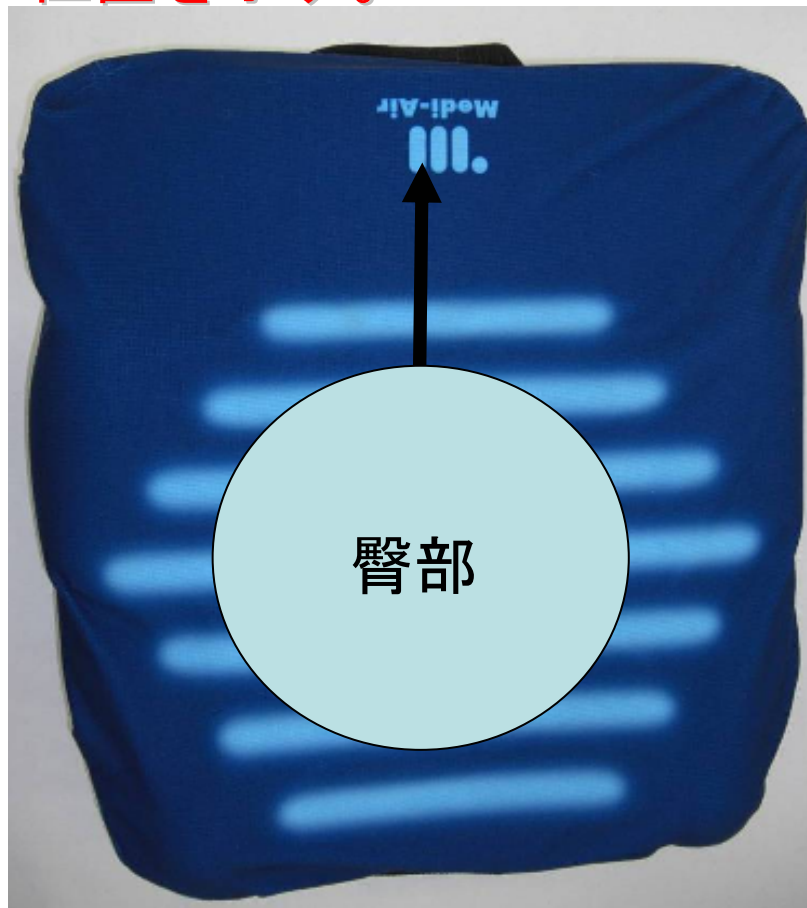


当施設では、入所者が車いす上に二時間以上、同姿勢を継続することは、めずらしいことではない。これに伴って、体位にズレが生じてくる。良好な姿勢保持ができていないことによって、ズレ応力が生じた結果、床ずれが頻繁に発生した。

それにも関わらず、車いす用クッションが使用されていないことは、珍しくなかった。

使用クッション

メディエア®利用者の座る位置を示す。



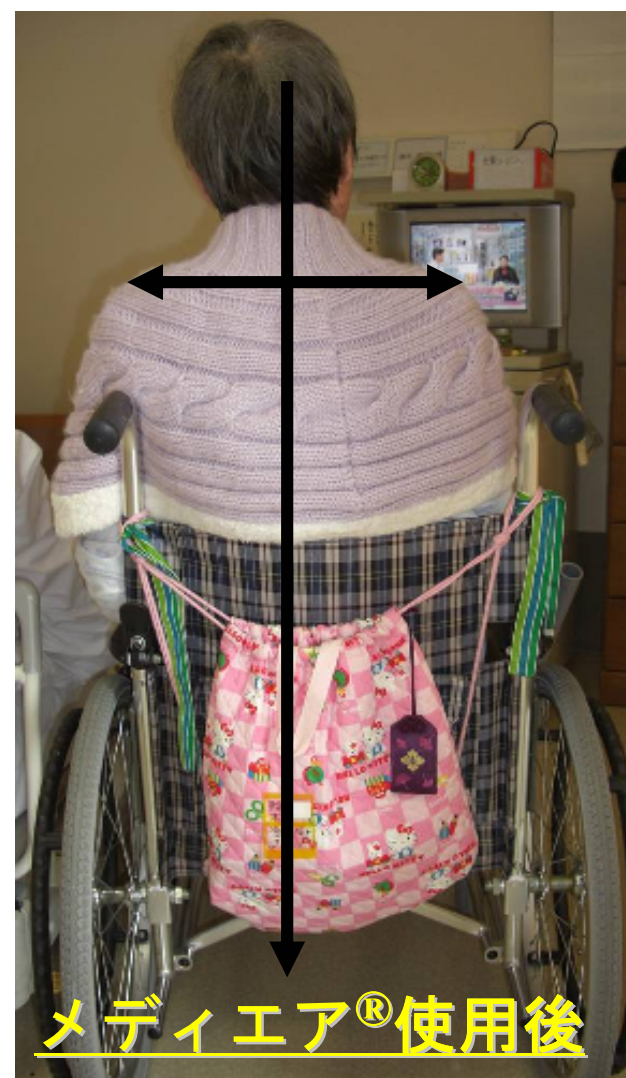
左右の大きなセル(白矢印)は、中心部のセル(赤矢印)の広がりを抑え、座位の安定に役立つ機能をもつ。



赤矢印は、クッションの動きを示す。これにともなって、適正な除圧と良好な姿勢保持が長時間にわたり可能となる。

車いす乗車時の姿勢

使用前後に、全3例に対して体圧測定を行った。除圧が十分にできている良好な体位であること(右図)を確認したのちに、メディエア®を使用した。メディエア®を車いす上に使用する前後の姿勢変化を示す(症例1)。



体圧測定の変化

(体圧測定は、ケープ社製のcello[®]を使用した)

症例	メディエア [®] 使用前		メディエア [®] 使用后	
	部位		部位	
	仙骨部	右大転子部	仙骨部	右大転子部
1	53.4		11.9	
2		55.9		23.1
3	87.6		17.2	

合計3回測定し、その平均値を記載した。メディエア[®]が、
高い体圧分散機能を有していることが示された。

考 察（その1）

今回、新規に開発されたメディエア®を、臨床実験として座位に問題がある3症例に使用した。前述のように、結果は良好であった。

藤川らは、現在、最も一般に普及している静止型エアセルクッションより、メディエア®の方が、最大接触圧が有意に低く、接触面積は有意に大きく、最大接触圧の経時的変化が有意に小さかったと報告している。

その結果、メディエア®は圧分散能が高く、座位に問題のある高齢者に有効である可能性が示唆されている。

われわれは、この考えに基づき、当施設に入所中で座位に問題がある入所者に対して臨床応用した。圧分散機能の高いメディエア®を使用することで良好な結果が得られた。

考 察（その2）

最近の老人保健施設では、ADL (Activities of Daily Living)、「寝たきり度」や「認知症度」の高い入所者を取り扱う機会が増えてきている。それに伴って、さまざまな問題を抱えているのが現実であり、その一つが、**座位の問題である。**

長時間にわたって使用できる車いす用クッションの開発は必要不可欠な背景がある。

メディエア®は、老人保健施設の医療従事者にとっては、待望の車いす用クッションであると言える。